



NPO法人  
奈良デイジーの会

活動報告書(2008 年度版)



この活動は、競艇の交付金による日本財団の助成金を受けています。

はじめに

この冊子は、マルチメディアデイジー教科書の普及のため活動している、NPO 奈良デイジーの会の活動報告です。

2008年9月17日に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が施行され、読みに困難のある児童や生徒に教科書をマルチメディアデイジー化して広く提供できるようになりました。

法律の成立後、マルチメディアデイジー教科書作成グループは、グループ同士の連携が可能になり、現在、財団法人日本障害者リハビリテーション協会が中心となり、マルチメディアデイジー教科書のニーズの集約、協同制作、協同利用、質の管理、重複制作の回避が進められております。今まで、一人の児童または生徒の用に供するために作成されてきたマルチメディアデイジー教科書が、複数の児童及び生徒が利用できるようになり、より多くの児童及び生徒が、マルチメディアデイジー教科書を使える環境が整いつつあります。マルチメディアデイジー教科書の現状を理解いただくために、NPO 奈良デイジーの会の活動報告書を作成しました。

平成 21 年 3 月 31 日

NPO 奈良デイジーの会 代表 濱田滋子

## マルチメディアデイジー図書の特徴

- ① 文字・音声・画像 を同時に再生するので、視覚と聴覚の両方から情報を得ることができる。
- ② 音声で読み上げる部分の文字がハイライトする。
- ③ 文字の大きさや行間、色を変えることができる。
- ④ 読むスピードを変えることができる。
- ⑤ 早送り、巻き戻し、章・節へのジャンプができる。
- ⑥ 何度も繰り返し見ることができる。
- ⑦ 世界で共通して使えるユニバーサルデザインである。
- ⑧ 製作、再生ソフトが無償で提供されている。
- ⑨ 障害を持つ人自身やその家族が製作することができる。
- ⑩ キーボードやマウスでの操作のみならず、タッチパネル・ジョイスティック・ゲームのコントローラー・点字など、障害に応じて様々な使い方ができる。
- ⑪ 図書のデータがあれば、録音図書・マルチメディア図書・拡大図書・点字図書に変換でき、LD・ADHD・自閉症等の軽度発達障害者、視覚・聴覚障害者、知的障害者や精神障害者、肢体不自由者、また高齢者など、読みに困難を伴う人々を幅広く支援できる。



## マルチメディアデイジー図書による効果

- ① 読みの困難を軽減することができる。
- ② 文字を目で追う困難を軽減することができる。
- ③ 漢字の読みや文章の読みが正確に入る。
- ④ 文字を読む労力が軽減するため、内容の意味理解に集中できる。
- ⑤ 何度も繰り返し再生できるので、再確認や文の暗誦がしやすい。
- ⑥ 人の手を借りずに読めるため、自立心・自主性を育むことができる。
- ⑦ 読めないことによる勉学意欲の低下を阻止できる。
- ⑧ 読むことが楽になり、もっと読もうという積極性がでてくる。
- ⑨ 時間的・費用的に負担が少なく、合理的に支援できる。

## ディスレクシア(読み困難)の子どもたち

見た目には障害が現れにくいディスレクシア(読み困難)の子どもたちは、親や先生や、また本人ですら読みに困難をもつことに気が付かないことがあります。気付いても、静かで目立たずおとなしい子どもが多いため、学校では対応を後回しにされがちで、必要な支援を十分に受けられているとはいえません。また本人が特別扱いをいやがり支援を拒否する場合があります。

彼らはどんなに努力して勉強しても、なかなか成果がだせません。そのため、勉強意欲をなくし、自分は能力がないダメ人間だと自信を失ってしまいます。支援によっては能力を発揮することが充分できるのに、残念でなりません。

視覚障害者が録音図書や点字図書を使うように、ディスレクシアはマルチメディアデージー図書を使えば今まで読めなかった本を読むことができます。さらに、できるだけ人の手を借りずに、自分のペースで自由に本を読み、勉強することができます。

マルチメディアデージー図書を使った読書支援、特に教科書のデージー化による学習支援をすることで、自分だってやればできるという自信に繋がり、今までのだめな自分のイメージを変えることができるのではないのでしょうか。

私たちは、ディスレクシアの子どもたちが不要に自分に対する評価を下げることなく、そのままの自分を受け入れることができるよう、自分にとって必要な対策を講じることができるよう、そして他の人に対しても人それぞれの違いを理解し認め合える、そんな自立した生き方をしてほしいと願っています。

- \* ”ディスレクシア“とは、知能障害や感覚・運動障害、注意力や意欲の欠乏、家庭や社会的要因による障壁が存在しないにもかかわらず、神経学的基礎の発達障害によって、読み書きの習得のみに困難を示す障害の事である。石井加代子「読み書きのみの学習困難(ディスレクシア)への対応策」文科省科学技術動向 月報、12 2004 より

---

---

### 【 ディスレクシアについての本の紹介 】

#### 『 怠けてなんかない! 』

ディスレクシア

読む・書く・記憶するのが困難な

LD の子どもたち

品川 裕香 著

岩崎書店 発行



## 教科書のマルチメディアデージー化

2006年度より奈良デージーの会は活動の中心を教科書のマルチメディアデージー化にしています。

なぜ教科書を中心に据えたのかというと、子どもの差し迫ったニーズがあったことが一つにあげられます。学年が進むにつれ、ディスレクシアの子どもたちはどんどん授業についていけなくなります。なんとか付いていきたい、みんなと一緒に勉強がしたい、という思いは切実です。二つ目に著作権法（2006年当時）に対応するということがあげられます。個人を特定して提供すると同時に、学校の先生の授業のための教材作りを手伝うという立場で教科書のデージー化をし、著作権法に沿うようにこころがけました。そうしながらも、読みに困難を持つ子どもの学習する権利を主張してきました。そして、3つめに、先生と連携をはかり、連携することで先生方へディスレクシアについての情報を提供し、デージーによる支援方法の普及をはかりました。

初めて提供した経緯を説明します。特別支援教育士スーパーバイザーの西岡有香先生がある中学校の巡回相談員をした時ディスレクシアの中学2年生の男の子をみつけ、校内コーディネーターのT先生にデージーを紹介するとともに、製作グループの奈良デージーの会を紹介しました。T先生は国語と地理の教科書のマルチメディアデージー化を奈良デージーの会に依頼しました。奈良デージーの会は製作するにあたり、T先生より生徒のニーズを伺い、作り方を先生と相談しながら製作を進めました。そして西岡先生にはコメントをいただき、修正を加えました。こうした連携はユーザーのニーズに即するということと、専門的な知識をとり入れた理想的な支援の形であるといえます。

提供するにあたり、先生の名前、児童・生徒の名前、学校名、住所を聞き、個人の特定をして、教科書をマルチメディアデージー化する旨の届け出を任意で出版社に提出しました。著作権法への対応と、こういうニーズがあるということを出版社にも知ってもらおうという意味での届け出です。

## マルチメディアデージー教科書活用例

提供対象者は2006年は2名でしたが、2007年には13名となり、2008年度は39名に増加しました。利用している先生方からの紹介や、NPO法人奈良デージーの会の啓発活動としての講演会やデモンストレーション、製作者養成のための製作講習会等により、利用者が増えてきています。また、兵庫県LD親の会「たつの子」からの要望も利用者数の伸びに大きく影響しています。

現在活用しているのはディスレクシアのみならず、LD・ADHD・自閉症・視覚障害・聴覚障害・脳性麻痺・知的障害等の読みに困難のある児童・生徒です。

## 支援対象者数

2006年度 …………… 2名(中学生1名・小学生1名)  
 2007年度 …………… 13名(中学生3名・小学生10名)  
 2008年度 …………… 39名(中学生10名・小学生29名)

## 事例

	学年・性別	困難なこと	使用方法	使用状況
①	小学4年 男子	音韻処理に問題があり、 特殊音節が特に苦手。 視機能にも問題があり、 読みがたどたどしかった。	家庭学習として	デジ書による勉強を2年 間続け、音読が上達し、内容も 楽しめるようになった。友だちが 増え、行動範囲も広がった。
②	小学5年 男子	ことばの区切りがわかり にくく、縦書きが苦手。 どこを読んでいるのかわ からなくなり、内容理解 も伴わない。	家庭学習として	デジ書で予習をすると授業が よく理解できるようになり、感想を 発表できるようになった。嫌いだ った国語が嫌いではなくなった。
③	小学5年 男子	高機能自閉症と診断。 飛ばし読みや勝手読み をする。	家庭学習として	先生が読んでいる箇所を見つけ やすくなり、余裕を持って授業が 聴け、心の余裕と自信がついて きた。本に対する意識が変化し てきた。
④	小学6年 男子	本に興味がなく、集中で きない。	特別支援学級の 個別指導として	パソコンに興味があり、耳からの 入力がよいのでデジ書には集中 できる。
⑤	小学6年 女子	読むのに時間がかか る。改行があるとどこを 読んでいるのかわからな くなる。	家庭学習として	デジ書で予習すると音読がうま くいく。初見のものでも読めるよ うになってきた。国語の成績があ がった。本に興味が出てきた。
⑥	小学6年 男子	脳性麻痺で知的遅れが ある。追視が困難。	特別支援教室で 個別指導	なかなか一人で読もうとしない が、音声で、リードしてくれるた め、負けないように読もうとす る。下の学年の教材を読むこと が多い。
⑦	中学2年 男子	漢字の読み書きが苦 手。	家庭学習として	漢字すべてにルビを振ったデ ジ書を使って学習に取り組 んでいる。iPodを利用して、通学 時間を使ってデジ書を聞いて

				いる。
⑧	中学1年 女子	漢字が苦手。どこを読んでいるのかわからなくなる。	家庭学習として	先生からデージー図書のことを聞き、本人が製作依頼をしてきた。1年では国語を利用したが、2年では社会も利用したい。
⑨	中学3年 男子	人工内耳使用。聴覚障害による学習の遅れがある。	特別支援学級の個別指導として	デージー図書で視覚と聴覚の両方から情報を入力できることと、何度も繰り返し聞いたり見たりできることが学習の助けになる。発音の練習にもなる

\*この表の内容はユーザーの担当教師や親御さんから報告いただいたものです

### 製作ガイドライン

製作にあたっては、先生や当事者、親ごさんからニーズを聞くようにしてきました。文字の大きさや字体、縦書き横書き、漢字の振り仮名、ハイライトの長さ、読みの速さなどが主な項目です。当初はユーザーのニーズに沿うようにとの意味で聞き取りを行ってきましたが、ニーズが多岐にわたり、次第に対応できる範囲を超えるものとなってきました。

これまでのニーズの聞き取りをもとに、製作のガイドラインの作成を行うことにしました。製作ガイドラインの作成は、製作グループ内での製作方針を統一するためであり、また製作したものを保存していくための基本となるデータのあり方を考えるものです。基本となる形が保存されることにより、そのデータをもとに再利用とユーザーへのカスタマイズがしやすくなります。また、他のグループとのやり取りをするうえでも共有できるデータとなります。製作協力態勢をとっている NPO 法人 ATDO と共同でガイドライン案を作成しました。後に兵庫県 LD 親の会「たつの子」からの依頼に対応する製作グループ間での協力体勢である「たつの子プロジェクト」においても製作グループの共通認識としてのガイドラインが（財）日本障害者リハビリテーション協会の主導のもと製作されました。

## 「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進に関する法律」 <http://law.e-gov.go.jp/announce/H20H0081.html>

2008年9月、「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進に関する法律」が施行され、それに伴って著作権法も改正された。この新法においてマルチメディアデージー版教科書が教科用特定図書として認められ、拡大教科書等とともに教科書として文科省及び出版社から認められました。さらに、文科省より調査ということで、製作者に対して教科書のデータの提供がおこなわれることとなりました。

NPO法人 奈良デージーの会は、これまで担当の先生からの依頼による提供という形をとってきましたが、先生だけでなく、親御さんや当事者からの依頼も受けるように変更しました。

またこの新法により、個人使用ということで公にすることができなかった成果物を公表することができるようになりました。NPO法人 奈良デージーの会は2009年2月「デージーを中心としたディスレクシアキャンペーン 成果報告会」（（財）日本障害者リハビリテーション協会主催）にて、これまで製作した教科書の一覧を公表しました。

### マルチメディアデージー図書の課題

新法施行により、マルチメディアデージー教科書をめぐる問題は大きく改善されたものの、なお多くの課題が残されています。

まず製作者の手が足りないということがあります。ユーザーの増加と希望教科の増加により、製作が追い付いていきません。また、読みの速さや漢字の振り仮名等のニーズも多様化し、編集に手間がかかるようになってきています。

製作者を増やすため、2008年度には製作講習会を4回開き、製作者の養成に努めました。しかし製作に時間を要することと、製作に対する費用が保障されていないということが製作者の定着を妨げています。一方技術的には、マイクロソフトオフィスでのデージー化の日本語対応や合成音声や新しい再生ソフト等のツールの開発による製作の効率化がはかれることに期待がかけられます。現在株式会社シナノケンシにより新しい再生ソフトが開発されています。これはユーザーサイドでのカスタマイズという点に配慮されたソフトで、製作者の編集の手間が軽減されます。

製作サイドの大きな動きとしては、前述の新法の施行を受けて、（財）日本障害者リハビリテーション協会をコーディネーターとして、NPO法人デジタル編集協議会ひなぎく・NPO法人支援技術開発機構・北海道かわり教室・富山大学森田研究室・こみこみドットコム・デージー江戸川・NPO法人 奈良デージーの会の8グループのネットワークができたことです。2009年度版教科書について、各グループ間での提供の協力体勢をとることとなりました。

とはいえ、私たちボランティアによる製作には限界があり、ごく一部の子どもに対応するにとどまります。教科書は子どもたちの学習を保障するものであ

り、すべての子どもが教科書にアクセスできるよう国が責任を負うべきと考えます。マルチメディアデイジー教科書についても公的機関による配信センターの設立が望まれます。各製作グループによる重複製作を避け、マルチメディアデイジー化されている教科書の一覧を作り、製品の一貫した管理を行う、管理システムと、必要とするすべての児童・生徒に無償で届けられるよう配信のシステムが整ったセンターが必要と考えます。

アメリカでは2004年より「全ての子どもたちは学ぶ事が可能であり、教育を受ける権利がある」とし、全国の教科書と教材をデイジー化することを法律で定めています。

さらに、今後の課題としては、一般図書もマルチメディアデイジー化できるように法律を整えるということが上げられます。教科書に限らず、すべての印刷物にアクセスできる環境が整うよう、法が整備され、社会の理解が得られるように望んでいます。

### 公開されているマルチメディアデイジー図書

\*NPO 法人 奈良デイジーの会のホームページ <http://www.gsk.org> から

ダウンロード できます

ディスレクシア啓発冊子「キミはキミのままでいい」(品川裕香 著、NPO 法人 EDGE 発行)

\* (財) 日本障害者リハビリテーション協会

「ENJOY DAISY」<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/> ダウンロード及びCD販売

・赤いハイヒール・蜘蛛の糸・賢者の贈りもの・三匹のこぶた・バースデーケーキができたよ 他

\*NPO デジタル編集協議会ひなぎく <http://www.daisy.gr.jp> ダウンロード

・七匹のこやぎ・むじな・おねえさんと九九 その他

\*LL ブック・マルチメディア DAISY 資料リスト

<http://homepage2.nifty.com/at-htri/booklist080305.pdf>

近畿視覚障害者情報サービス研究協議会 LL ブック特別研究グループ／編



### 【 本の紹介 】

LL ブック よみやすい本

『赤いハイヒール』

～ある愛のものがたり～

ビョーン・アーベリン 写真

ロッタ・ソールセン 文

中村 冬美 訳

(財)日本障害者リハビリテーション協会 発行

マルチメディアデイジー図書の CD 付



## NPO 法人 奈良デイジーの会活動

- 2003 年度
- 2003 年 5 月 3 日～5 日 デイジー製作研修会 主催 (財)日本障害者リハビリテーション協会
- 5 月 5 日 奈良デイジーの会設立
- 2003 年 11 月 22,23 日 第12回日本 LD 学会 自主シンポジウム発表
- 2004 年度
- 2004 年 8 月 28～30 日 デイジー製作研修会コーディネイト 主催 (財)日本障害者リハビリテーション協会
- 2004 年 10 月 27～29 日 全国図書館大会 「障害者サービス 次の一歩を進めるために」にて発表
- 2005 年 1 月 20 日 講演会「軽度発達障害支援のこれから～日米交流会～」開催
- 2005 年 2 月 6 日 デイジースキルアップ研修会参加 主催 (財)日本障害者リハビリテーション協会
- 2005 年 2 月 10 日 奈良県教育研究所 教育セミナーにて展示
- 2005 年度
- 2005 年 6 月 5 日 第3回 デイジー図書体験会開催
- 2005 年 7 月 2 日 川西町ボランティア連絡協議会記念講演にて展示
- 2006 年 1 月 29 日 マルチメディア DAISY キャンペーンセミナー(リハ協主催)参加
- 2006 年 2 月 10 日 奈良県教育研究所 教育セミナーにて展示
- 2006 年 2 月 中3教科書(国語・歴史・地理) デイジー化への取り組み開始
- 2006 年 3 月 19 日 NPO ファーム 感覚統合療育奈良教室にてデイジー体験会
- 2006 年度
- 2006 年 7 月 「第4回なら・未来創造基金」助成事業開始
- 2006 年 10 月 LD 学会 自主シンポジウムにて発表、ポスター展示
- 2006 年 12 月 4 日 講演会「デイジーってなに？」開催
- 2007 年 2 月 9 日 奈良県教育研究所 教育セミナーにて展示
- 2007 年度
- 2007 年 4 月 日本財団助成金事業「教科書のデイジー化」開始
- 2007 年 6 月 1 日 奈良県立盲学校にて講演「デイジー図書の紹介」
- 2007 年 6 月 20 日 奈良県議会議員にデイジーの資料を配付
- 2007 年 7 月 19 日 文化庁文化審議会著作権分科会に資料提出
- 2007 年 8 月 18,19 日 「絵本ギャラリー in 奈良」にて展示
- 2007 年 8 月 21 日 NPO 法人 奈良 DAISY の会 設立
- 2007 年 8 月 22 日 長岡市教育委員会にデイジー説明
- 2007 年 8 月 27 日 奈良県教育長に要望書提出
- 2007 年 9 月 25 日 奈良市教育長に要望書提出

- ・2007年9月27日 京都府教育委員会にデイジー説明・府議会文教委員に資料提出
- ・2007年11月10日 教科書点訳連絡会セミナーにてデイジー教科書展示
- ・2007年11月23,24日 LD学会 自主シンポジウムにて発表
- ・2007年12月1日 講演会『「読む」ことに困難がある子(人)の学習を考えるーマルチメディアデイジー教科書のこころみー』開催
- ・2008年1月12日 シンポジウム「DAISYを中心としたディスレクシアへの教育的支援」にて講演
- ・2008年度
- ・2008年4月 日本財団助成事業「教科書のデイジー化」継続開始
- ・2008年4月30日 教科書協会訪問
- ・2008年5月24日 「拡大写本のつどい」関西大会で展示(大阪)
- ・2008年5月31日 日本コミュニケーション学会講演会で展示(大阪)
- ・2008年7月29日 東大寺整肢園でのデイジー体験会
- ・2008年8月 三菱財団助成決定
- ・2008年8月16,17日 シンポジウム絵本ギャラリーinならにて展示
- ・2008年8月29日 第4回 視覚障害支援教育研究大会(大阪教育大)にて講演
- ・2008年8月30,31日 日本ライトハウス展で展示
- ・2008年12月7日 講演会『「読む」ことに困難がある児童・生徒の学習を考えるーマルチメディアデイジー教科書の活用ー』開催 約70名(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の助成による)
- ・2009年1月25日 シンポジウム～日本におけるLL(エルエル)ブック普及のための提案～にて展示
- ・2009年2月6,7日 国際シンポジウム 「地域における障害者のインクルーシブな情報支援」で講演
- ・2009年2月9日 「公共図書館の児童サービスを考える」(図書館問題研究会兵庫・大阪支部共催)にて講演
- ・2009年2月11日 「DAISYを中心としたディスレクシアキャンペーン事業」成果報告会  
～DAISY教科書提供体制の確立を目指して～で講演

・マルチメディアデイジー製作講習会

- 第1回 2005年8月12,13,14日 参加者 主催者をのぞき8名
- 第2回 2007年3月24,25,4月1日 参加者 主催者をのぞき9名
- 第3回 2007年10月20,21日 参加者 主催者をのぞき10名
- 第4回 2008年1月26,27日 参加者 主催者をのぞき9名
- 第5回 2008年7月5,6日 参加者 主催者をのぞき10名
- 第6回 2008年9月20,21日 参加者 主催者をのぞき10名
- 第7回 2008年11月8,9日 参加者 主催者をのぞき10名
- 第8回 2009年2月28日3月1日 参加者 主催者をのぞき13名

主催者側は、講師と、参加者 2 名につき 1 名のアシスタントの計 6 名にオブザーバー  
数名

- ・例会 毎月1回 午前 10 時—午後 3 時 製作したダイジー教科書の評価や情報  
交換等

## 当社が提供できるマルチメディア DAISY 教科書

マルチメディア DAISY 教科書の提供を希望される方は、教科書協会への届け出が必要です。

下記 2009 年 3 月 20 日時点で、NPO 法人 奈良 DAISY の会が制作し、提供できる、マルチメディア DAISY 教科書とページ数です。

下記に含まれない教科書に関しては、制作グループの連携のセンターである、財団法人日本障害者リハビリテーション協会にお問い合わせください。

2006 年度作成分(341 ページ)

中学歴史(東京書籍)118 ページ

中学地理(帝国書院)118 ページ

中学 2 年国語(東京書籍)75 ページ

小学 3 年国語(光村図書)21 ページ

小学 3 年国語(大阪書籍)9 ページ

2007 年度作成分(日本財団助成分、378 ページ)

中学 3 年 国語(東京書籍)72 ページ

中学 3 年 公民(東京書籍)165 ページ

中学 1 年 国語(光村図書)21 ページ

小学 6 年 国語(東京書籍)7 ページ

小学 6 年 国語(光村図書)18 ページ

小学 5 年 国語(光村図書)44 ページ

小学 3 年 国語(光村図書)28 ページ

小学 1 年 国語(東京書籍)12 ページ

2008 年度作成分(1174 ページ、日本財団助成分、400 ページ、三菱財団助成分、140 ページ、支援技術開発機構制作受託分、316 ページ)

中学 2 年国語(光村図書)75 ページ ATDO 分

中学歴史(東京書籍)172 ページ

中学歴史(教育出版)127 ページ

中学 1 年国語(光村図書)102 ページ

小学 6 年国語(東京書籍)84 ページ

小学 6 年国語(光村図書)129 ページ ATDO 分

小学 6 年国語(大阪書籍)15 ページ

小学 5 年国語(光村図書)112 ページ ATDO 分

小学 4 年国語(大阪書籍)64 ページ

小学 4 年国語(東京書籍)98 ページ

小学 4 年国語(光村図書)194 ページ

小学 3 年 国語(光村)34 ページ

小学3年 国語(東京書籍)17 ページ 三菱財団分  
小学2年 国語(東京書籍)123 ページ 三菱財団分

2009 年度作成予定

中学3年国語(光村図書)  
中学歴史(教育出版)(作成していない分を製作)  
小学6年国語(大阪書籍)  
小学5年国語(大阪書籍)  
小学5年国語(東京書籍)  
小学4年社会(東京書籍)  
小学4年国語(東京書籍)(作成していない分を製作)  
小学3年社会(東京書籍)  
小学3年国語(東京書籍)  
小学3年国語(大阪書籍)

# 障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律(平成二十年六月十八日法律第八十一号)抜粋

## 第一章 総則

### (目的)

第一条 この法律は、教育の機会均等の趣旨にのっとり、障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の発行の促進を図るとともに、その使用の支援について必要な措置を講ずること等により、教科用特定図書等の普及の促進等を図り、もって障害その他の特性の有無にかかわらず児童及び生徒が十分な教育を受けることができる学校教育の推進に資することを目的とする。

### (定義)

第二条 この法律において「教科用特定図書等」とは、視覚障害のある児童及び生徒の学習の用に供するため文字、図形等を拡大して検定教科用図書等を複製した図書(以下「教科用拡大図書」という。)、点字により検定教科用図書等を複製した図書その他障害のある児童及び生徒の学習の用に供するため作成した教材であって検定教科用図書等に代えて使用し得るものをいう。

### (国の責務)

第三条 国は、児童及び生徒が障害その他の特性の有無にかかわらず十分な教育を受けることができるよう、教科用特定図書等の供給の促進並びに児童及び生徒への給与その他教科用特定図書等の普及の促進等のために必要な措置を講じなければならない。

## 第二章 教科用特定図書等の発行の促進等

### (発達障害等のある児童及び生徒が使用する教科用特定図書等に関する調査研究等の推進)

第七条 国は、発達障害その他の障害のある児童及び生徒であって検定教科用図書等において一般的に使用される文字、図形等を認識することが困難なものが使用する教科用特定図書等の整備及び充実を図るため、必要な調査研究等を推進するものとする。

### (障害その他の特性に適切な配慮がなされた検定教科用図書等の普及)

第八条 国は、障害その他の特性の有無にかかわらずできる限り多くの児童及び生徒が検定教科用図書等を使用して学習することができるよう適切な配慮がなされた検定教科用図書等の普及のために必要な措置を講ずるものとする。

## 著作権法

(教科用拡大図書等の作成のための複製等)

第 33 条の 2 教科用図書に掲載された著作物は、視覚障害、発達障害その他の障害により教科用図書に掲載された著作物を使用することが困難な児童又は生徒の学習の用に供するため、当該教科用図書に用いられている文字、図形等の拡大その他の当該児童又は生徒が当該著作物を使用するために必要な方式により複製することができる。

[《追加》平 15 法 085](#)

[《改正》平 20 法 081](#)

- 2 前項の規定により複製する教科用の図書その他の複製物(点字により複製するものを除き、当該教科用図書に掲載された著作物の全部又は相当部分を複製するものに限る。以下この項において「教科用拡大図書等」という。)を作成しようとする者は、あらかじめ当該教科用図書を発行する者にその旨を通知するとともに、営利を目的として当該教科用拡大図書等を頒布する場合にあつては、前条第2項に規定する補償金の額に準じて文化庁長官が毎年定める額の補償金を当該著作物の著作権者に支払わなければならない。
- 3 文化庁長官は、前項の定めをしたときは、これを官報で告示する。

[《追加》平 15 法 085](#)

- 4 障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律(平成 20 年法律第 81 号) [第5条](#)第1項又は第2項の規定により教科用図書に掲載された著作物に係る電磁的記録(同法第2条第5項に規定する電磁的記録をいう。)の提供を行う者は、その提供のために必要と認められる限度において、当該著作物を利用することができる。

## 教科書のマルチメディア DAISY 化ガイドライン

2009年1月3日

NPO 法人 奈良 DAISY の会・NPO ATDO

このガイドラインは、小学生・中学生の国語の教科書の DAISY 版を AMIS で再生する場合を想定したものである。

### ① DAISY 化する部分

DAISY 化するの基本的には、国語の場合、本文・著者紹介・注釈。社会の場合、本文・注釈とし、ユーザーの希望によって、資料解説・画像説明などもデイジー化する。

### ② 宣言文

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja">
<head>
<title>題名</title>
<meta http-equiv="Content-type" content='text/html; charset="Shift_JIS"' />
<link href="〇〇.css" type="text/css" rel="stylesheet"/>
```

### ③ 1ページのテキスト量をスクロールのない範囲内に収めるよ 配慮する。

AMIS で、縦書きの図書を再生する際に、黄色のスクロールが左端にはりついて、見えにくいという問題がある。

1 枚の XHTML ファイルに入れるテキストと画像が、AMIS の再生画面に収まるようにすれば、スクロールしないので、この見えにくさを回避できる。

よって XHTML ファイルを細かく分けるようにする。

#### XHTML ファイルを分ける方法

テキストを分ける場所は、段落の終わりなど、内容の切れ目で分ける。

まず、教科書を確認して、XHTML ファイルの必要数を確認し、必要な数だけ、XHTML ファイルを作成する。

XHTML ファイルを作成するには、下記宣言文と、閉じるタグを記入して、「名前をつけて保存」で、保存先フォルダ(画像データ等の入っているフォルダ)を選択して、名前をつけて保存する。

ファイル名は、例えば、進化した路面電車の56ページ用の XHTML ファイルの場合は、「shinka56.html」というように、題名+ページをつけておくと、あとで分かりやすい。(1ページをいくつかに分けた場合は、「shinka56-1.html」、「shinka56-2.html」とする)

#### ④ 縦書き

縦書き用のスタイルシートを使う。

フォルダの中に、tate.css をコピーしておく。このスタイルシートにリンクをはって、縦書きのスタイルにする。

<div class="tate"> 本文 </div> で本文を囲う。

==== 宣言文の例=====

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja">
<head>
<title>題名</title>
<meta http-equiv="Content-type" content='text/html; charset="Shift_JIS"' />
<link href="tate.css" type="text/css" rel="stylesheet" />
</head>
<body>
<div class="tate">
```

本文

```
</div>
</body>
</html>
```

=====

#### ⑤ 見出し(h1~h6)

一番最初の XHTML ファイルには、<h1 class="title">題名</h1>をつける。

以降の XHTML ファイルで特に見出しとなるものがない時はページ番号を使う。

例えば、「進化する路面電車」の2枚目の HTML ファイルが56ページの内容であれば、

この場合、2 枚目の XHTML ファイルの初めの見出しを<h1>p56</h1>とする。  
かくしたい見出しには、スタイルシートを使って表示しないようにする。

## ⑥ ページ

ページタグを使ってページ番号をつける場合は、前の XHTML ファイルの一番最後 (</body>の前)に付ける。

XHTML ファイルは、見出しで始まるので、ページ番号を、この見出しの前につけることはできない。そこで、前の XHTML ファイルの一番最後に、次のページのページ番号をつける。

例えば、57ページのページ番号は、56ページの XHTML ファイルの、一番最後に、  
<span class="page-normal">57</span>

</body>

</html>

とつける。そうしておく、ページジャンプした場合は、次の XHTML ファイルの最初から再生することができる。

## ⑦ 画像

画像は内容に即した箇所で、テキストの見やすさを損なわないように挿入し、単純貼り付けを原則とする。

画像のファイル名は、必ず半角英数にする。

ファイルサイズは、最大で、縦400px、横400px

XHTML ファイルと同じフォルダに保存する。

## ⑧ レイアウト

レイアウトは教科書を正確に再現することに囚われず、マルチメディアデザイン図書としての見やすさを重視する。

優先事項は、印刷された文字を DAISY 化して生徒の内容理解を助けることであり、印刷された図書のレイアウトを再現することではない。

★ユーザーが文字を拡大して見ることを想定し、配慮しなければならない。

注意する点

- ・1ページのテキスト量
- ・改行タグ(拡大すると改行箇所がずれるので、注意して使うこと)
- ・テーブルタグ(テーブル内の文字は拡大できない)
- ・画像の流し込み

## ⑨ フォント

フォントはMSゴシックを基本とし、ユーザーの希望があれば明朝も対応する。

(基本のスタイルシートでフォントはMSゴシックになる。)

## ⑩ フォントサイズ

フォントサイズは120%、行間は2.5を基本とする。

(基本のスタイルシートでフォントサイズは120%、行間は2.5になる)

### ⑪文字のエンコード

文字のエンコードは、shift-jisにする。

EasePublisherを使用した際は、エンコードはUTF-8になるが、ビルドの際に、shift-jisに変換する。UTF-8にまだ対応していないソフトがあるための処置。

### ⑫ルビ

基本的にはルビなしと原本通りのルビ付きの2通りを製作し、保存する。

### ⑬フォルダ名の付け方

英数半角で16文字以内

タイトル・ルビ がわかるようにフォルダ名を付ける

ルビなし P ・教科書通りのルビ PR ・全ルビ PRR

例 gonngitsuneP

merosuPR

### ⑪ 制作用サーバーアップロード

アップロード用のフォルダをつくり、その中に、製作したマルチメディア DAISY 図書のフォルダを入れ、圧縮してアップする。

アップロード用フォルダ名のつけ方

小中学年 教科 出版社 タイトル名 (DAISY 図書以外のものは最後に内容を入れる。)

\* 出版社名は、最初の1文字を記入。光村は、光。大阪書籍は、大。

例)

中2 国光「字のないはがき」

小4 国大「進化した路面電車」

小4 国大「進化した路面電車」テキスト・画像・PDF

小4 国大「進化した路面電車」HTML

完成前の DAISY のフォルダには、日付をつける。完成時のみ日付をはずす。

例) 中2 国光「字のないはがき」20081021

教科書の障害者読書支援システム(DAISY)図書化 メンバー

濱田滋子 NPO 法人 奈良デイジーの会 代表  
濱野真士 NPO 法人 ファーム  
桑山 容 大阪府シルバーアドバイザー  
戸田和子 音訳ボランティア  
牧内多美子 音訳ボランティア  
足立知代 音訳ボランティア  
國武淳次郎 NPO 法人 福祉創造スペース猿の家 理事長  
濱野幸恵 NPO 法人 ファーム 代表  
堀田広子 キャリアコンサルタント  
大内田貞郎 活字研究家  
為平敏子 NPO 法人 奈良デイジーの会  
大垣由賀 会社員  
大垣真帆 NPO 法人 奈良デイジーの会  
小澤理香 大学 研究員  
太田順子 財団法人日本障害者リハビリテーション協会 職員  
久保田文 社会福祉法人日本ライトハウス 職員  
榎本 昭 情報通信コンサルティング  
岡田百合子 NPO 法人 ぽこ・あ・ぽこ  
長尾公美子 公務員  
濱田麻邑 NPO 法人 支援技術開発機構 職員  
濱田恒一 医療法人 ハマダ眼科 理事長

NPO 法人 奈良デイジーの会 活動報告書(2008 年度版)  
作成

NPO 法人 奈良 DAISY の会

〒634-0812 奈良県橿原市今井町1-3-9

TEL 0744-22-2121/FAX0744-22-2121

naradaisy@gsk.org

<http://www.gsk.org>

## 助成

2006 年度「第4回なら・未来創造基金」助成事業

読みに困難を持つ子供のための、マルチメディアデイジー図書制作の効率化(30 万円)

2007 年度、日本財団助成事業

教科書の障害者読書支援システム(DAISY)図書化事業(100 万円)

2008 年度、日本財団助成事業

教科書の障害者読書支援システム(DAISY)図書化における学校との連携事業(100 万円)

2008 年度、三菱財団助成事業

マルチメディア DAISY 教科書の制作と実証的検討事業(100 万円)

## 支援

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

社会福祉法人 日本ライトハウス

NPO 法人 支援技術開発機構

## 寄付

2007 年度

近畿視覚障害者情報提供研究協議会(3 万円)

久保田 文

田部 井紀美子

原本 義一

竹田 典子

西川 尚子

堀田 広子

榎本 昭

濱田 滋子

濱田 恒一

2008 年度

近畿視覚障害者情報提供研究協議会(3 万円)

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 (20 万円)

田中 和美

長尾 公美子

小澤 理香

伊藤 綾子

森田 健

大内田 貞郎

土田 剛 (法人 ロゴ)

濱田 滋子

濱田 恒一